

『承知いたしました。……帳場はん、二兩おとりかへ。』

『持つて往き。』

『へエ旦那さん。お待たせを……。』

『や憚り。さア駕屋さん、これは貴方に差し上げるや無い。お家に御座る親御前へ私の寸志、何ぞお口に合ふ物でも上げとくれ。』

『イヒ、ハ、ハ、(泣く)。オイ相棒。お禮申して呉れ、又小判二枚下はつたんや。』

『旦那さん大きに有難ふはんで。……私の家の筋向いにも父親が一人……。』

『アハハハハ、面白い御人ぢや。いや縁があれば又乗せてお貰ひ申す。ハイ御苦勞さん……伊八。それでは案内を頼みましょう。』

『え、其お包みを。』

『持つて下さるか。』

『鶴の間へ御案な——。』

立派な座敷の床の前へピタツとお坐りになります。

『え、粗茶でござります。』

『や頂戴しませふ。ア、流石は北陽の綿富、普請から建具萬端、道具類に到るまで結構な物やナ……』

お、向ふの衝立の下から、お足がチヨイ／＼見える誰方ぞお在でかな。

『これ。向ふへ往てなはらんかいナ。……お目障りで恐れ入りました、あれは當家抱えの見習ひ衆で御座りますので。』

『ア、左様か、いや拘まわん／＼。此方へ這入て貰ふとくなされ。』

『有難ふ存じまして。……お許しが出ました、皆此方へお這り。』ゾロ／＼／＼／＼。』

『へおいでやす。』

『へおいでやす。』

『へおいでやす。』

『ハイ。ハイ。ハイ。……オー仰山御座るのやナ。なアこんな時分から修業をして行儀作法を見習ひなさる。良え藝妓衆が出来る筈ぢや。皆で何人御在るのや。』

『十人でムります。』

『ア、左様か、伊八。チョツと十兩とり替えとくれ。』

『承知いたしました。……帳場はん。』

『何やいな。』

『へツへツくツへ。』